

福江地区

福江地域は福江島の東半分を占め、その名を冠した主要港と最大の都市がある。江戸時代(1603～1867)の歴史にまつわる重要なスポットがいくつかあり、五島列島で最も有名なランドマークである鬼岳もある。

見どころ

福江城と武家屋敷

福江城は、近くの浜辺にちなんで石田城と呼ばれることもある、珍しい海城である。1863 年に完成した日本で最後に建設された城で、推定 5 万人の労働力が投入された。中央の建造物は江戸時代が終わるとすぐに取り壊されたが、外壁の石垣と堀は残っており、1858 年に福江藩第 30 代藩主によって建てられた別荘と庭園もある。近くには、かつて高級家臣が住んでいた武家屋敷通りがあり、この地域の特徴である玄武岩の岩壁に囲まれている。

燈瀬海岸

燈瀬 7 キロメートルの海岸線は、約 1 万 8000 年前の鬼岳噴火の名残で、アアと呼ばれるギザギザの黒い溶岩で形成されている。それ以来、海の波がこの多孔質の石を浸食し、小さな石英の結晶

がまばらに散りばめられた奇妙な形の柱や岩山の印象的な海岸を作り出している。潮が引くと、岩は潮だまりを作り、そこでエビ、ヤドカリ、カタツムリ、フジツボなど、さまざまな小さな生き物が波の再来を待つ。対馬海流の暖かい海水のおかげで、海岸線には亜熱帯植物がたくさん生えている。近くにはアブンゼ・ビジター・センターがあり、五島の景観、生態系、歴史について多言語で説明している。

鬼岳

標高 315 メートルの鬼岳は、五島の火山の中で最も若く、最後に活動したのは約 1 万 8000 年前である。なだらかな円錐形で、緑の草に覆われている。かつて山頂を覆っていた松の木は、福江城築城のために伐採された。頂上まで少し登ると、福江市街や海岸線、近隣の島々が一望できる。道沿いには、鬼岳の最後の噴火によって放出された「溶岩弾」と呼ばれる黒い溶岩の破片を見つけることができる。